

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 7-4

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	統合保育所建設事業					
評価者	担当課名	児童センター		担当係名	児童保育係	
	管理職	職名	所長	作成者	職名	
		氏名	牧野京子		氏名	安井雅憲
事業の概要	いずれの保育所も老朽化が進み、良い保育環境の妨げとなっており、改善が急務となっている。また、入所児童数も出生率とともに減少しており、運営の効率化が求められ、分散した保育所の統合を図り、併せて子育て支援に対応すべく、幼稚園機能を兼ね備えた認定子ども園をはじめとする各種機能拡充を図る。			全体計画 (平成 20 年度～ 21 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 355,600 千円 その他 千円 一般財源 11,970 千円 事業費計 367,570 千円		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 民間委託	<input type="checkbox"/> その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)	<input checked="" type="checkbox"/> 登載事業	<input type="checkbox"/> 非登載事業	優先度	A		
事業の位置付け	政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～				
	基本施策	8 子育て・子育ての充実				
	単 位 施 策	2 「子育て」支援の強化				
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	10,200 千円	298,000 千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	83,000 千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	6,075 千円	142 千円	千円	千円	千円
	合 計	16275 千円	381,142 千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	保育所入所児童、子育て支援センター利用者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	施設の老朽化及び児童数の減少など、施設及び体制の改善が急務。	新たに建設する保育施設数			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	衛生的にも環境的にも優れた施設と、受入れ環境の充実。また、これに併せてメニューの拡充を図り利用者の利便性を図る。	① 新たに建設する施設数	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	20年度	
			目標値	1 施設	
			実績値	0 施設	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	より良い保育環境の整備。	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
基本・実施設計委託	計画した新たな保育環境整備のため、基本・実施設計業者の選定にあたっては、プロポーザル方式を用い、より理想に近づける設計となるよう業務を委託した。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	町が子どもの育成を全面的に支援するためには、町営での保育運営が理想であり、この環境整備を進めるためには施設の建設が必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	次年度建設するための基本・実施設計が完成した。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	計画に沿った内容と、コストの軽減を設計業務において反映した。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	町内に住む全ての乳幼児に公平に利用してもらうための整備計画であり、公平性は担保できる。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 計画どおり事業が進み、次年度へのよりよい施設の建設に繋げることができた。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持 本町の構想を反映させた設計を具体化する。		
---------------------------------	--	--

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 7 - 5

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	統合保育所用地取得事業					
評価者	担当課名	児童センター		担当係名	児童保育係	
	管理職	職名	所長	作成者	職名	係長
		氏名	牧野京子		氏名	安井雅憲
事業の概要	保育所建設にあたり、建設用地を取得する。			全体計画 (平成 年度～ 年度) 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 千円 事業費計 千円		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 民間委託	<input type="checkbox"/> その他 ()			
第5期総合計画(前期)		登録事業	<input checked="" type="checkbox"/> 非登録事業	優先度		
事業の位置付け	政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～				
	基本施策	8 子育て・子育ての充実				
	単位施策	2 「子育て」支援の強化				
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	42,460 千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額(一般財源)	3,759 千円	千円	千円	千円	千円
	合計	46219 千円	千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	統合保育所	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	既存町有地に適当な保育所建設用地がないため、新たに取得する必要がある。	建設用地として新たに取得する土地面積		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	保育所建設適地の確保。	指標(指標計算式/解説)	目標年度	20年度
		① 用地取得面積	目標値	14,681.31 m ²
			実績値	14,681.31 m ²
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	保育所建設適地の確保。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%
内容(どのような手段で何を行ったか)				
用地確定調査	用地取得にあたり、適地を選定し、所有者承諾のもと用地確定調査を委託した。			
用地取得	土地所有者と売買契約を締結し、用地を取得した。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	統合保育所の建設にあたっては建設用地選定は重要であり、この結果、適地である用地を取得できたことは、よりよい保育所づくりにつなげることができる。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成 状況	適地を取得できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	適正価格で用地確定調査及び取得することができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

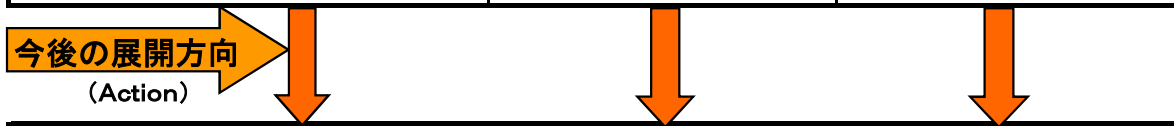
(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	保育所建設用の土地取得であり、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 適地の取得ができたため、次年度の建設につなげることができた。		



終了		
----	--	--

* 展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 7 - 6

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		入所児童通所事業															
評価者	担当課名	児童センター		担当係名	児童保育係												
	管理職	職名	所長		職名	係長											
		氏名	牧野京子		作成者	氏名	安井雅憲										
事業の概要	幌内保育所休止に伴う交通機関の確保として自園車両による通所事業を行うことにより、地域の不利益の解消と合せて児童の安全な登降所を行う。				全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度)	<table border="1"> <tr> <td>国・道支出金</td> <td>1,500 千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>18,815 千円</td> </tr> <tr> <td>事業費計</td> <td>20,315 千円</td> </tr> </table>		国・道支出金	1,500 千円	地方債	千円	その他	千円	一般財源	18,815 千円	事業費計	20,315 千円
国・道支出金	1,500 千円																
地方債	千円																
その他	千円																
一般財源	18,815 千円																
事業費計	20,315 千円																
実施方法	直営	■ 民間委託		その他 ()													
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	B											
事業の位置付け	政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～															
	基本施策	8 子育て・子育ての充実															
	単 位 施 策	2 「子育て」支援の強化															
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務													
	その他計画・根拠等																
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)											
	国・道支出金	千円	1,524 千円	千円	千円	千円											
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円											
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円											
	雄武町負担額 (一般財源)	1,723 千円	6,006 千円	3,710 千円	3,710 千円	3,710 千円											
	合 計	1,723 千円	7530 千円	3710 千円	3710 千円	3710 千円											

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	幌内地域の保育所入所児童・保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	平成14年度から幌内保育所が休所となったため、保護者が市街地まで児童を送迎することが大変となる。	1便			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	保護者協力のもと、自園車両での通所。	① 送迎の便数	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	20年度	
			目標値	1 便	
			実績値	1 便	
達成度	100.0 %				
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	毎日の遠距離送迎の負担を軽減。	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
児童の送迎	地域保育所の休止に伴い、幌内地域の児童が日の出保育所へ通所するための送迎を自園車両で行った。また、H20年度は利用児童が多かったため、2往復対応も行ったが、事前に保護者との協議を経たため、全面的に協力が得られ、スムーズに行うことができた。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	地域にとっては、長距離の毎日の送迎は大変であり、また、近年は対象者も増加傾向にあり、送迎車両の運行が求められている。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成 状況	事業実施により、毎日の通所に支障を来さなかった。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	送迎車両の運転業務は委託により実施しているが、連絡体制の強化を図ることで、連絡ミスによる不要時の運行などを避けることができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	新たに発生した不利地域の利便性を図るため、支援を要するものである。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
休止した保育所の地域に住む児童と保護者の不利益にならないよう実施している本事業は、1台の車両での送迎は効率性にも優れ、また、地域のネットワーク化も図られ、スムーズな保育ができています。		

今後の展開方向
(Action)

継続／拡充	継続／拡充	
休止した保育所の地域に在住する入所児に対して、通所手段を支援することは今後も必要であり、継続することが適当である。また、平成22年度からは保育所が統廃合となり、不利益解消のため対象地域の範囲が拡大となることから路線数の増加が必要となり、通所用車両1台を購入し拡充を図ることが必要となる。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 7-7

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	一時保育促進事業					
評価者	担当課名	児童センター	担当係名	児童保育係		
	管理職	職名	所長	作成者	職名	係長
		氏名	牧野京子		氏名	安井雅憲
事業の概要	仕事の都合や保護者の傷病などで、一時的に家庭での保育ができない場合に、保育所内で児童の保育を行う。			全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度) 国・道支出金 900 千円 地方債 千円 その他 1,230 千円 一般財源 1,120 千円 事業費計 3,250 千円		
実施方法	■ 直営	民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)	■ 登載事業	非登載事業	優先度	B		
事業の位置付け	政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～				
	基本施策	8 子育て・子育ての充実				
	単位施策	2 「子育て」支援の強化				
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	180 千円	180 千円	180 千円	180 千円	180 千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	256 千円	246 千円	246 千円	246 千円	246 千円
	雄武町負担額 (一般財源)	213 千円	224 千円	224 千円	224 千円	224 千円
	合計	649 千円	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	小学校就学前の幼児	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	核家族が進み、一時的に子どもを預けられる環境が減少している。	年間利用延べ人数 100人		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	緊急、一時的に安心して預けることができる支援。	指標(指標計算式/解説)	目標年度	20年度
		① 年間利用人数	目標値	100人
			実績値	131人
			達成度	131.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	幼児を持つ保護者の不安を和らげる。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
一時的な保育所受入	広報等により事業周知を行い、連絡・受入体制を整え、一時的な保育受入を行った。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	核家族が主体となっている現代では、一時的に子どもを預けれる環境が乏しい現状があるため、このニーズに応えることができる本事業の実施は重要であるとする。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	数値的にも目標値を上回り、必要とされるニーズに応えることができ、有効であったと判断する。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	保育所運営内での受入れであることから、無理なく、無駄なく事業実施が可能である。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	


(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	保育所入所要件を満たさない家庭においても、緊急、または不定期就労等の場合に活用ができる。また、制度趣旨の特異性から、利用料も一律としている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
保育所は、多面的な機能を兼ね備える役割を持っており、現在の施設規模や人員配置で行える本事業の役割と効果は大きい。現段階では、家庭外で受入れができる唯一の場所であり、計画どおり進めることが適当と判断する。		

 今後の展開方向 (Action)		
継続／現状維持 本事業は状況等により利用数の変動があるものの、ニーズが無くなることは見込まれていない。受入態勢に無理が生じないように配慮し、制度周知を図り、安心できる子育て環境メニューの一つとして継続することが適当である。	継続／現状維持	
*展開方向の区分 <input type="checkbox"/> 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止		

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 7 - 8

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	保育所地域活動事業																
評価者	担当課名	児童センター		担当係名	児童保育係												
	管理職	職名	所長	作成者	職名												
		氏名	牧野京子		氏名	安井雅憲											
事業の概要	保育環境は、異世代との交流機会が極めて少ない状況にあるが、児童健全育成の観点からも、世代交流が行える環境づくりが必要であり、その効果も大きい。また、育児に関する情報提供や交流を持つことにより、地域一体となった保育環境を整えることができる。			<table border="1"> <tr> <td>全体計画</td> <td>(平成 20 年度～ 24 年度)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">事業費</td> <td>国・道支出金</td> <td>1,500 千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>1,250 千円</td> </tr> <tr> <td>事業費計</td> <td>2,750 千円</td> </tr> </table>	全体計画	(平成 20 年度～ 24 年度)	事業費	国・道支出金	1,500 千円	地方債	千円	その他	千円	一般財源	1,250 千円	事業費計	2,750 千円
全体計画	(平成 20 年度～ 24 年度)																
事業費	国・道支出金	1,500 千円															
	地方債	千円															
	その他	千円															
	一般財源	1,250 千円															
	事業費計	2,750 千円															
実施方法	■ 直営	民間委託	その他 ()														
第 5 期 総合計画 (前期)	■ 登載事業	非登載事業	優先度	B													
事業の位置付け	政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～															
	基本施策	8 子育て・子育ての充実															
	単 位 施 策	2 「子育て」支援の強化															
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務														
	その他計画・根拠等																
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)											
	国・道支出金	300 千円	300 千円	300 千円	300 千円	300 千円											
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円											
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円											
	雄武町負担額 (一般財源)	155 千円	250 千円	250 千円	250 千円	250 千円											
	合 計	455 千円	550 千円	550 千円	550 千円	550 千円											

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	入所児・保護者・高齢者・子育て中の親	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	保育所は他の世代と接する機会や、町民が保育の様子を見る機会がほとんどない。	年間総参加者数		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	交流機会と参加者の確保。保育内容が見られる環境づくり。	指標(指標計算式/解説)	目標年度	20年度
		① 参加者数	目標値	600 人
			実績値	1035 人
			達成度	172.5 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	他の世代との交流など事業を通して、特に年長児の自覚と自信や意欲を育てるとともに、町民に保育活動等を知る機会を提供する。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
①世代間交流	長寿クラブ員や高齢者などを各種イベントに招待、または訪問し、競技や踊りなどを通じて交流を図り、入所児だけでなく、地域の方々との接点を持つことにより、保育環境の充実、児童の健全育成を図る。			
②地域子育て家庭への育児講座	入所児の保護者や地域の子育て中の方々などに、様々な視点で入所児の様子を見学してもらい、交流を図ることにより情報提供や意見交換の機会をつくる。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	世代間交流は児童の育成に大きな役割を持つとともに、特に高齢の方々にも喜ばれている。また、保護者や地域を巻き込んだ子育て支援としても効果がある。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	世代間交流においては、長寿クラブ員などからは、こうした交流が非常に喜ばれ、また、入所児にとっても交流そのものや保育所外での活動は良い経験となる。育児講座においては、家族や地域の方々に保育所の役割の理解を深めてもらい、地域との関わりを深めてもらうことができる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	教材等については、できるだけ他の事業と教養が図れるよう工夫し、事業費を抑えている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	長寿クラブ員や施設利用者、あるいは保護者など、事業ごとに対象範囲を明確にすることにより公平性を保つ。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 世代間交流として、高齢者を招待・訪問し交流を図ることは、子どもたちの心を育てることに大きな役割を持ち、伝承遊びなど、伝える側、教わる側の双方の立場で得るものが大きく、計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持 事業の趣旨を明確にした上で、様々な角度で有効と考えられるメニューづくりとそのメニューごとの目的を明確化し、入所児だけでなく、地域にも意義のある事業展開を図ることが可能であり、事業を継続することが適当である。		
---	--	--

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--